



## 「情報」と「行動」

～高3進路説明会挨拶より～

高校3年生のみなさん、こんにちは。高校2年生での進路説明会の話覚えていますか。センスオブミッション6月号でもこの話をいたしました。それは、生徒のキャリア形成をする上での大切な2つのキーワードについてでした。この2つとは「情報」と「行動」です。

今の時代、「情報」は、みなさんに平等にあふれかえるくらいあります。私の学生時代は、この「情報」について、個人差がありました。知っている人は知っていたり、私のような鈍感タイプは何も知らない感じで大学入試を受けていたものです。

ところが、今の時代、この「情報」は誰でも瞬時に、大量に手にすることができます。ということは、キャリア形成において差がつくのは、「行動」の方ということになります。この「行動」は大きな行動と小さな行動があり、大きな行動は誰もが経験することができる学校行事やテスト、入試などを言います。つまり、これも差がつかないということになります。差がつくのは「小さな行動」の方です。これは日常の積み重ねで、わからないことは聞いたり、自分の考えを伝えたり、この「小さな行動」によって、「自分だけの情報」を手に入れて、それをもとに大量の「情報」にアクセスすることが大切であると話しました。そうすれば、「情報の海」におぼれない。

さて、今日は学校推薦型選抜の説明会です。生徒のみなさんはよく聞いておいてください。大前提の認識をもってもらいたいのは、受け入れる大学側と推薦する高校側の両方の立場をわかっておくことです。

大学側は「こんな生徒を推薦してください」という条件を出しています。また、一般入試でも十分合格できる学力も求めます。高校側は、つまりこれは「学校長として」と、とらえてください。最終的に私の責任で推薦を出すからです。ではどういう生徒を選び推薦するのかというと、成績や活動実績、人物像などの総合判断です。評定が足りているからだけでは選考できません。指定校推薦では、確かに合格する確率は高いです。でも100%ではない！

だから校内選抜の段階では、「なぜこの大学でなければならないのか」という点が弱かったり、面接でコミュニケーションが取れなかったり、大きな問題行動は論外ですが、日頃、小さな問題行動が多い、つまりささいな注意を何回も受けていたりする場合は選びません。それは、君たちの次の学年の推薦枠に影響があるからです。合格して入学後、出身校の代表として、やっていかななくてはならないからです。これは次の学年の人たちも同じです。そういったことから、総合的に校内選抜会議が行われます。そしてその結果は、受け入れるしかないので。何とかしていただきたいなお願いは受けられません。気持ちを切り替えて次に向かうことも大切です。また、校内推薦をもらって推薦で合格できたとしても、その後の高校生活をいい加減に送って、一般入試で十分合格できる人になっていない状況にならないよう、覚悟をもつことも約束してください。

最後に、「ピア・エフェクト」という言葉があります。同じクラスや学年の友だちの学力から受ける影響という意味です。一般的に、よく学習をする友だちの中にいると、自分の学力にもプラスの影響があるという科学的根拠のことです。もちろん、反対に、授業妨害する生徒から受けるピア・エフェクトもあります。当然、負の影響を受けるという因果関係です。しかも成績以上に生活行動が負の影響を受けるというデータがあります。先生たちが「受験は団体戦」とよく言います。それは、背景にそういった根拠があるからです。だから、みんなで最後までがんばれ！

(学校長 重枝 一郎)

